

## 男性不妊外来を開設しました!!

診療受付時間・診療日

隔週木曜日の午後  
(受付時間 14:00~16:30)(診療時間 14:00~17:00)  
に松波総合病院にて完全予約制で行っております。

予約受付時間

月~金曜日 8:30~11:30

問い合わせ先 (泌尿器科外来)  
058-388-0111 (代)



担当医師  
泌尿器科副部長  
萩原 徳康

### 診療内容

不妊症に対しては、女性側、男性側それぞれからアプローチする必要がありますが、ご夫婦で対応する必要があります。当院産婦人科では既に女性不妊外来(毎週水曜日 14:00~15:30)が開設されていますが、今回の男性不妊外来の開設により、当院で一貫してご夫婦の問題である不妊症に対処可能となりました。なお、一施設内で女性、男性側要因の不妊問題に対処可能な病院は岐阜県下では当院のみとなっております。さらに当科では無精子症に対して岐阜県下で唯一、顕微鏡下精巣上体内精子採取術(MESA)、顕微鏡下精巣内精子採取術(Md-TESE)を実施しており、岐阜県内全域、近隣の産科医院から数多くご紹介いただいております。

## 講習会・イベントのご案内

医療関係者向

### 第11回濃尾医療連携セミナー

当院職員と連携医院の先生方との参加による「第11回濃尾医療連携セミナー」を開催します。今回は特別講演に国立国際医療研究センター国際疾病センター副センター長/感染症内科科長であられる大曲 貴夫先生をお迎えしてのセミナーとなります。

日時: 4月21日(土)  
〈講演〉15:45~18:10  
〈情報交換会〉18:10~

場所: グランヴェール岐山

【濃尾医療連携研究会総会】

15:45~16:00 テーマ:『濃尾医療連携研究会のこの1年』  
講師:松波総合病院 病院長 山北 宜由先生

【濃尾医療連携セミナー】

〈一般演題〉

16:00~16:30 座長:松原クリニック 院長 松原 俊樹先生  
テーマ:『直腸癌に対するTOTAL ROBOTIC SURGERYの現状』  
講師:松波総合病院 外科部長 小林 建司先生

16:30~17:00 テーマ:『ロボット支援前立腺全摘除術の初期経験』  
講師:松波総合病院 泌尿器科副部長 萩原 徳康先生

〈特別講演〉

17:10~18:10 座長:不破医院 院長 不破 洋先生  
テーマ:『感染症診療のロジック—外来での抗菌薬治療を中心に—』  
講師:国立国際医療研究センター 国際疾病センター副センター長/感染症内科科長 大曲 貴夫先生

## かかりつけ医院のご紹介



### 羽島郡 笠松町の 笠松クリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~午後1:00	○	○	○	○	○	○	—
午後4:00~ 7:30	△	○	△	○	○	○	—

△:午後2:00~7:30 —:休診

院長: 大矢 隆晶

心がつかく苦しいとき笠松クリニックを思い出してください。きっとお力になれると思います。当院のホームページにて心と体に役立つ情報を提供しています。ぜひアクセスしてみてください。 <http://kasamatsu-clinic.com>  
また、デイケア・ナイトケアは10:00~20:00で日曜日、祝日以外に行っています。

心療内科 精神科  
小児心療科

休診日 日曜日・祝日  
〒501-6081  
岐阜県羽島郡笠松町  
東陽町34  
☎ 058-216-7830  
FAX 058-216-7831

患者さまと  
病院をつなぐ  
かけはし  
No.150  
MATSUMAMI

# まつなみ

2012  
4  
発行  
社会医療法人  
蘇西厚生会

## Clinical Talk

### 質の高い診療を支える 縁の下の力持ち、画像診断医

近年、CTやMRIなどを用いた画像診断の技術革新が急速に進み、現代の医学は、もはや画像診断なくしては成り立たない時代になっています。当院でも、CT、MRI、PETなどの最先端画像診断に熟知した4名の画像診断医が常駐。日々あがってくる医療画像を専門家の目で細かくチェックし、診療に役立つ情報をリアルタイムで提供しています。

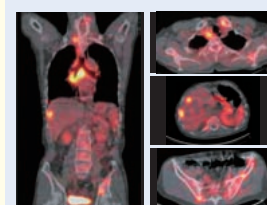


松波総合病院  
第二放射線科部長 伊原 昇  
専門分野:  
癌に対する動注化学療法  
画像ガイド下のドレーナージ・ステント治療などの低侵襲医療  
認定資格:  
日本医学放射線学会:放射線診断専門医  
日本インターベンショナルラジオロジー学会:専門医  
マンモグラフィ検精度管理中央委員会:検診マンモグラフィ読影認定医師  
日本核医学会:PET核医学認定医  
厚生労働省:臨床研修指導医

放射線科の診療内容には大きく2つの柱がある。放射線科の診療内容は、CTやMRI、PETなどの画像をみて診断をつける「画像診断」と、放射線を用いてがんなどの病気を治療する「放射線治療」の2つに分けられ、どちらも現在の医療のなかで重要な位置を占めています。私自身は画像診断を専門としていますので、今回は画像診断の分野についてお話ししたいと思います。

### 頭のとっぺんから足の指先まで 人間の身体のをすべてを診断。

私たち画像診断医は、CTやMRI、造影剤使用撮影、RI(シンチ)などの医療用画像の診断を専門に行う医師です。診断の対象は、頭のとっぺんから足の先まで、人間の身体すべて。各診療科の先生から画像診断の依頼があると、患者さまが疑われている病気の有無や性質、広がりなどを知るために最も有効な画像診断方法を考え、放射線技師に指示します。画像診断には様々な種類があり、多くを行えば情報は増えますが、患者さまの肉体的・精神的負担を考えると望ましいことではありません。ムダな画像診断を省き、患者さまの負担を少しでも減らすことも私たちの大切な仕事です。

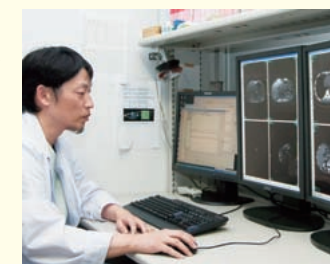


肺がん患者さまのPET-CT画像。光っているところが「がん」で、右下葉肺がん、多発縦隔、右鎖骨上、左頸部リンパ節、多発肝転移、多発骨転移と診断されました。

当院では0.35秒で心臓全体を三次元撮影する「320列CT」、「PET-CT」など、最新鋭の画像診断機器を完備。写真のPET-CTは人の細胞の活動状態を見る「PET」と、細かな位置情報を検出する「CT」がひとつになったもので、小さながんの早期発見が高い確率で可能となりました。

### “迅速かつ的確”に診断レポートを作成・配信。

画像撮影が終わると、得られた画像をもとに診断レポートを作成。診断に際しては、患者さまの過去の画像や病歴、血液検査の結果などを参照しながら総合的に判断します。診断結果はすぐに主治医の元に届けられ、治療方針をたてるために役立てられています。こうした迅速な画像診断が、素早い治療方針の決定、スピーディな治療に繋がっています。



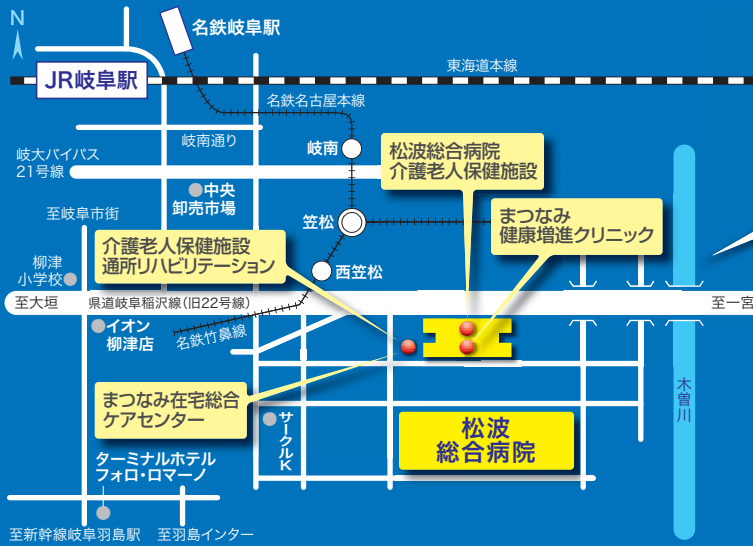
モニターに映し出された画像を見ながら診断レポートを作成します。

### モットーは、「どんな小さながんも見逃さない」。

たとえば悪性のがんの場合はあちこちに転移する可能性があります。私たち画像診断医は、肝臓、消化管など、個々の臓器にとらわれることなく、患者さまの全体像を冷静な目でまんべんなく観察し、どんな小さながんも見逃さないよう努めています。それでも人間のやることから、時には見落とすことがあるかもしれません。しかし、院内では全て主治医と画像診断医のダブルチェックとなっているため、誤診や見落とされる可能性は極めて低くなっています。

### より精密な画像診断で、医療の質を高めた。

病院が良い病院かどうか外から見分けるには、その病院に画像診断の専門医がいるかどうかで判断できると言われています。幸い当院には画像診断の専門医4名が常勤。これは岐阜県下の病院でも2番目に多い数字であり、当院が医療の質と専門性を重視していることを物語っています。画像診断機器のめざましい進歩と共に、診療全体における画像診断の重要性はますます増加しています。私たちが常に知識や技術をレベルアップし、病院の医療レベルを向上させていきたいと思っています。



お気軽にお問い合わせください。  
☎ 058-388-0111  
<http://www.matsunami-hsp.or.jp/>  
社会医療法人蘇西厚生会  
松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町代185-1



「こんにちは 点滴室です。」

## 日常生活を送りながら、安全、安心、快適に化学療法を。

1階外来棟の一角にある「点滴室」は、当院で診療を受けているがんの患者さまが、外来で抗がん剤治療を受けていただくためのお部屋です。2009年にオープンし、ベッド数は5床。化学療法に精通した医師と看護師2名が専任して、呼吸器科、婦人科、泌尿器科、血液内科、乳腺外科などの患者さまに薬物療法を提供しています。



安全に点滴が実施されているか、アレルギーや副作用で気分がすぐれない方がいらっしゃらないかなど、患者さまに安全、安心、快適に治療を受けていただけるよう心がけています。

右から  
看護師 野々垣智子  
看護師 桂川 美幸

### がんの化学療法は、入院から外来治療の時代へ。

今まで、抗がん剤による化学療法は、その使用法や副作用の管理が難しいため、入院治療が主とされてきました。しかし、多くのがん化学療法が、数ヶ月に及ぶ長期の加療を必要とすることから、仕事をしながら、また、家族と生活を共にしながら続けたいというニーズが増えてきました。加えて、最近は抗がん剤の副作用を抑える薬も開発され、抗がん剤治療は以前のように大変つらいものではなく、外来通院で十分可能なものとなっています。これにより、患者さまの生活の質(QOL)が向上するとともに、仕事をすることも可能となり、一定期間入院することに比べて経済的負担も軽減されるようになりました。

### チームで進める安全、安心、快適、かつ効果的な抗がん剤治療。

患者さまが快適に、安心して治療に専念できる環境を整えるためには、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど、多職種での連携によるチーム医療が欠かせません。抗がん剤の取り扱いは慎重を要するため、要所要所で医師と薬剤師、薬剤師と看護師、あるいは医師と看護師のダブルチェックを行うなど、薬の確認や点滴の管理には十分注意を払い、安全で確実な化学療法を実施しています。さらに薬剤師は

患者さまに抗がん剤の薬効や副作用などについて指導し、看護師は日常生活の注意点などについてわかりやすく支援を行い、食事が十分にとれない患者さまには、管理栄養士がアドバイスする、また、医療費などに関しては、ソーシャルワーカーが相談にのるなど、多職種の医療スタッフが治療を受ける患者さまを支えています。また、点滴室にはウィッグも展示しておりますので、お気軽にご相談ください。

### 「自己管理ノート」でご自身の体調を管理・把握。

入院して行う化学療法と違い、ご自身のライフスタイルに合った生活や仕事ができるのが、外来化学療法の大きなメリットです。その一方で、患者さまは副作用に対応しながら、自分で体調を管理していく必要があります。そこで、患者さまには初回時に「自己管理ノート」をお渡しして、副作用や体調、気になったことなどを記録していただいています。通院のたびにこのノートを持ってきていただき、私たちスタッフは、その記録をもとに患者さま一人ひとりに応じた医療や看護が提供できるよう努めています。

外来化学療法に関して患者さまやご家族に心配

ごとや困ったことがあれば、遠慮なくお声かけください。患者さまの大切な治療が順調に継続できるよう、チーム医療で精一杯サポートいたします。



スタッフ手作りの「自己管理ノート」。薬の記録や治療の記録も明記できますので、旅行に出かける時にも、お役立てください。

## くすりのお話し



### 薬剤部では、安心・安全な薬物療法をめざして入院時、持参薬の確認を行っています。

当院薬剤部では、患者さまがより安心・安全な薬物療法を受けられるよう、入院時に「持参薬」を確認させていただいています。患者さまがご入院されて間もなく、薬剤師が「お持ちになったお薬はありますか?」と病室をうかがっています。「持参薬」とは、患者さまが入院時にお持ちになった普段お使いになっているお薬のことで、飲み薬、目薬、貼り薬、塗り薬、注射薬など全てのお薬が含まれます。入院患者さまの約70%が持参薬をお持ちになります。ジェネリック薬品(後発医薬品)の持参薬も増え

ています。国はジェネリック薬品の更なる普及を推し進めていますので、今後もますます増えることが予想されます。ジェネリック薬品の普及によりお薬の名前を聞いただけではどのようなお薬か解りにくくなりました。薬剤師は、ジェネリック薬品も含めた全ての持参薬、サプリメントや健康食品、アレルギーや副作用に関する情報を早急に把握し、主治医が良質で安心・安全な薬物療法を行うサポートをしています。入院の際は、お薬だけでなく、薬袋・お薬の説明書やお薬手帳も大切な情報源です。お持ちください。

### 持参薬確認のメリット

持参薬確認によって、患者さまには以下のような4つのメリットがあります。

- メリット1** 持参薬と、入院中に処方されるお薬との相互作用(飲み合わせ)がチェックされ、重複投与を避けることができます。
- メリット2** 医師から手術や検査前に服用中止の指示のあるお薬をチェックすることができます。
- メリット3** 普段お飲みになっているお薬の飲み方についてアドバイスすることができます。
- メリット4** 健康食品やサプリメントとお薬との飲み合わせについてチェックすることができます。



### 安心・安全の薬物療法が継続されるようご理解・ご協力をお願いします。

持参薬を管理させていただく中で、かかりつけの開業医の先生や、保険薬局に問い合わせをさせていただく場合がございます。お薬に関する正確な情報を得るために、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。また、退院の際には、お薬手帳にアレルギー歴や副作用

歴、入院中に使用したお薬に関する情報を記載して患者さまにお渡ししております。お薬手帳をお持ちでない患者さまには、無料でお薬手帳をお作りしております。

薬剤部では、これからも患者さまの入院中そして退院後も安心・安全な薬物療法が継続されるよう、患者さまのお薬に関する情報の収集、発信をしていきます。お薬に関して、ご相談、ご要望があればお気軽にお声かけください。



安全な薬物療法を行うため、薬剤師は患者さまが院外から持ち込まれた薬を一つひとつ識別し、管理します。膨大な種類の薬があるので、調べるのに時間がかかることもあります。

